



「仙台サバキ女子」のリーダーとして活躍する神林茉莉さん(31)は、仙台市中央卸売市場にある水産卸業の仙台水産に勤める会社員です。男性ばかりの職場のイメージがある市場で奮闘する神林さんに思いを聞いたよ。

(1面に関連記事)

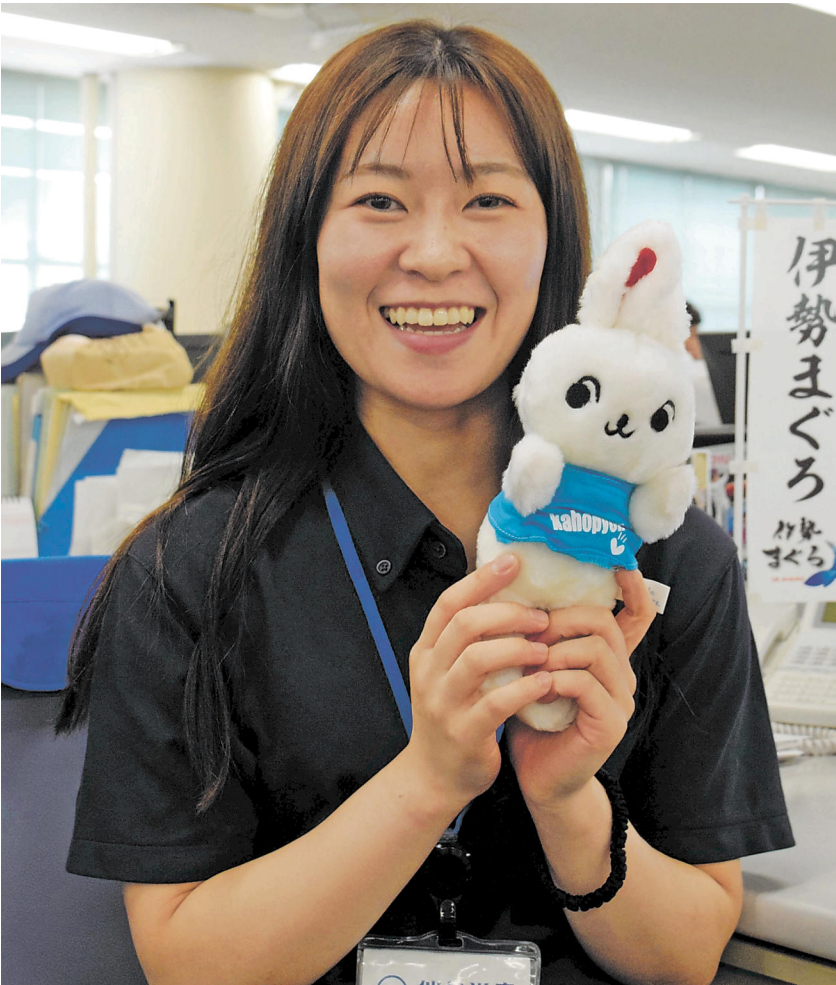
サバキ女子を始めたのは、社長から「やってみたいか」と「一本釣り」されたことがきっかけです。社長は愛媛県宇和島市で解体ショーをしているグループを見て、仙台でもやってみたいと思ったそうです。

育休を終え、職場に復帰したばかりで、子どもに誇れる新しいことにチャレンジをしたいと思っ

ショーで浜や地域に活力

神林茉莉さん(31歳・仙台サバキ女子)

マグロをさばき終え、自席に戻った神林さん。7月13日、仙台市若林区の仙台水産



ていました。といっても、普通の魚もさばいた経験がありませんでした。今も練習の日々です。

解体ショーや仲買人の協力でさばいたマグロはこれまで約300本に上ります。大きいものだと100kgを超えます。

浜育ちです。中学の時、東日本大震災が起き、浜は壊滅的被害を受けました。浜を、地域を元気にする仕事に就きたいと思い、高校卒業後、水産業

に飛び込みました。

高校時代はおしゃれが大好きなギャル系の女子高生で、付けまつげにカラーコンタクト、ミニスカートを着てました。明るくさばきした性格だったので、就職担当の先生から「市場に向いている」と薦められました。

市場は男性社会のイメージがありますが、中に入ってみると、営業や会計などいろいろな場面で女性が活躍していま

す。会社の取締役に女性がいることも、心強いです。

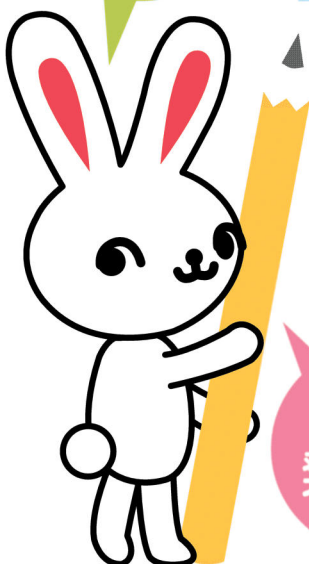
自分がさばいたり、関わったりしたマグロがスーパーに並べられているのを見たときや、小さな子から「グループに入りたい」と言われたときに、やりがいを感じます。仕事で市民の食や文化を支えていると実感できます。

これまでプロ野球チームのファン感謝祭や県外の会社の新入社員歓迎会などで解体ショーを実演してきました。次の目標は、海外デビューです。

かんばやし・まこ 1995年、仙台市生まれ。名取高卒。2014年、仙台水産入社。同社の生鮮鮪課に所属し、昨年7月に立ち上げたPRチーム「仙台サバキ女子」でリーダーを務める。

河北春秋ノート

「河北春秋」は論説委員が、政治、経済、文化、地域ニュースなど幅広い視点で筆者の意見を織り交ぜて執筆しています。



脳トレ
コツコツ続けると…。
集中力が身に付きます

入試に
読み解く、伝える…。
国語力が高まります

就職に
筆記、面接、小論文…。
時事問題は必須です

好評
発売中!!

1冊
(1ヵ月分)
150円
(税込み)

お申し込み お近くの河北新報販売店へご注文ください。 お問い合わせ 河北新報販売事業協同組合 平日10:00~17:30 TEL.022-211-1349